

学生同士が刺激し合える学修空間を備えた図書館へ再生

横浜キャンパス 横浜校舎図書館



1階の大部分を占める「アクティブコモンズ」には、グループワークのために、大小のホワイトボード、プロジェクタ、可動式什器等を整備

【ポイント】

学びの可視化による相互刺激

大学での学びを可視化

- 1階には、グループワークが可能で、学生が刺激し合える空間として、オープンなスペースに可動式の什器や、ICT 機器を備えた「アクティブコモンズ」を設置。
- 2階には、集中して個人学修ができる空間とアクティブな作業ができる空間を併設。透明間仕切りにより学びを可視化。
- 1階には「学習何でも相談デスク」、2階には TA によるアカデミックサポートが受けられるエリアを配置。学生の学修活動を促し、大学での専門的な学びにつながるよう支援。



1階アクティブコモンズ内の「ワークショップエリア」で行われた「書評コミュニケーションゲーム」ピリオバトル

図書館の敷居を下げる資料配置

- 1階は図書館への導入の場所として、入り口付近にはアート、スポーツ等の雑誌、ロビーの存在感のある背の高い書架には書物の奥深さを印象づける名著を配置。
- 2階、地下 1、2 階の書架エリアには、より専門的に調べるための資料を配置。

継続的な運用改善

- リニューアルオープン前にワークショップを行い、学生を含む全スタッフで目指す新たな図書館イメージを共有。また、利用者からの質問を集計・分析し、サービスに反映。



2階「ブックスケープ」は、従来型の書架ではなく、本の森に迷い込んで思いがけない本とも出会うという意図を込めた配置に

整備による効果

入館者数 1.5 倍

- 入館ゲート統計では、授業期間中は前年比の 1.5 倍程度に増加している。これは利用目的が広がったことによる利用増と推察される。

アカデミックな学びの可視化とひろがり

- 施設整備 3 ヶ月後と 6 ヶ月後に動態調査等の定性的調査を実施。
グループでの討議や、グループと個人学修の併用等の新たな使い方も見られるようになった。
- ワークショップエリアで春学期末には「卒論説明会」、秋学期末には「卒論発表会」を開催。従来の図書館にはなかった利用形態であり、予想以上に多くの学生が来館。



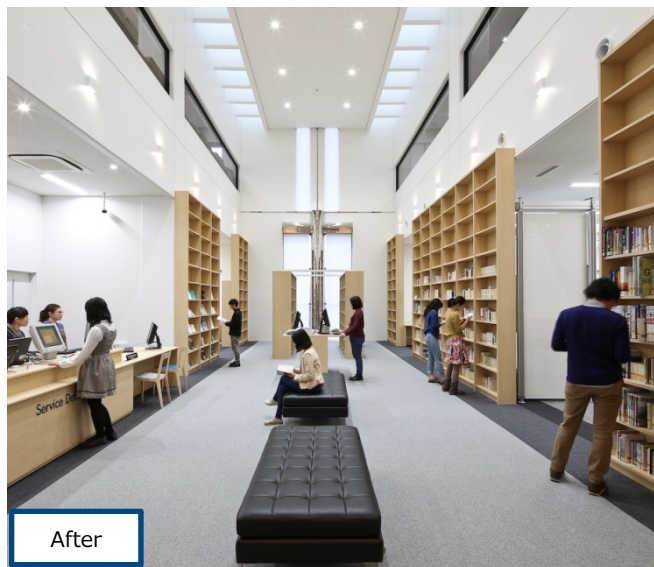
1 階アクティブcommons内の「ワークショップエリア」で行われた卒論発表会のポスターセッション

整備の背景・目的

- 「学生支援強化と環境に配慮したキャンパス整備」を主眼とした「横浜キャンパス向上計画」は、2012 年度、大学長からの諮問を受けて検討を開始、2013 年度から 3 年計画として実施。
- 同計画の一環として、自学自修環境の整備を目的に横浜図書館の全面改修に取り組み、2015 年 3 月にリニューアルオープン。



改修前 (左)



アクティブcommons入り口の開放的なロビー「メインホール」には存在感のある背の高い書架を配置 (右)

更なる展開

学生のアカデミックな活動の中心に

- キャンパスのアカデミックな活動の中心として機能できるよう、教員主導のイベントとの連携や、ゼミ、授業単位で学生が図書館を事前・事後学修の場として利用するよう誘導する等、利用促進のための仕掛けを検討している。
- 例えば、図書館内で上級生のアカデミックな活動が、1、2 年生に知的刺激を与えていくこと等が期待される。

図書館の強みを活かして

- 図書館の強みとしての「空間」「資料」「人的支援」を意識し、それらを活用した利用しやすい図書館を目指す。
- また、図書館内のアクティブスペースにおける①個人利用、②グループ利用、③授業サポート利用の共存をはかり、それぞれ快適に活動できるよう工夫していく。